

王寺町タウンミーティング会議録

○政策予算等今後のまちづくりについて

【町長】

第1回のタウンミーティングということで本当にお忙しい中、足をお運びいただきましてありがとうございます。

趣旨を最初に申し上げたいのですが、私も町長に就任させていただいて、こうしてみなさんの前で半年の実績なり説明できる訳ですけれども、公約の中で一番最初の思いとしましては開かれた行政にしたいといったことを基本の目的にしております。やはり、市町村というのは基礎的自治体でありまして、住民のみなさん方の日常生活に一番深い関わりを持つて役所でありまして、きめ細かな行政サービスをしていくためには普段からみなさん方のご意見をできるだけお聞きする機会を持ちたいということでの思いから、タウンミーティングをしますということも公約の中で掲げさせていただきました。

町政と住民のみなさん方、できるだけ近いところでのやりとりの方法としまして、いわゆる広報と広聴というそういう言い方をします。広報というのは要するに、今、役場でどういう方向に向かって何をしているかということ、できるだけ住民のみなさん方に適宜適切にお知らせすることだろうと思います。

今回お手元に配布をさせていただいた資料ですけれども、3月の議会で所信表明をさせていただきました。これを[4月号の王伸](#)に掲げておりますので、それを1つ入れさせてもらってます。それから、6月議会で政策の肉付けを補正予算として議会のご承認をいただきまして、その概要をできるだけわかりやすい形でみなさん方にお示しをしたいということで[7月号の王伸](#)に掲載させていただきました。

今後です、広報の一番のツールといいますか手段はやっぱり、王伸であり週報であります。特に、王伸につきましてはできるだけ内容を充実していきたいという風に思っておりますのでぜひこれについても、こういう記事を書いたらどうかとか、みなさん方の意見をお寄せいただいたらなと思います。

広報と言うことで今、申しましたように、王伸の充実を図るとか、今回ホームページを充実させていただいたと思っております。その中で「町長の部屋」ということで、メールで随時質問をお寄せいただくようにしております。できるだけ、早く回答をしたいなと今対応しているところでありますけれども、役場の

中にも「あなたの声」という箱で直接投函あるいは持ってきていただけるように、これは継続的にやっていると思いますが、こういった機会も含めていろんな場でご意見をお寄せいただきたいと思います。回答を差し上げるときに質問の意図がちょっと分かりにくい場合、意に沿った回答かと思うことがあるのですが、それはそれとして、できるだけ早くその時点での考え方をお返ししたいなということを基本に、職員に指示しております。不十分であれば又、意見をお寄せいただくという、コミュニケーションを図っていただけると思っております。

広報広聴を充実する中で、やはり役場と住民のみなさんとの距離感をできるだけ近くしたいということ。普段から職員には、住民目線で仕事をするようにと指示をしております。当然、我々も住民でありますので、特に私の場合、自治会長もさせていただきましたし、住民の目というのと、役場の目というのと、放っておきますと、ずれてくるが多々ありますので、常に住民目線、自分が住民であったらどういう意向または希望を持って、どうしてほしいのか、そういう基本的な思い、考えがあるはずですので、それを常によく感じてほしいと指示しております。

その関連で言いますと、1つは姿勢と言いますか、スピード感のある行政が大事だと思っております。いろいろご意見お聞かせいただいた職員も、どういう良い答えができるんだろうと悩んでいると思うんですけど、やはり、住民の方からすればできるだけ早く、その回答がほしい、私も実はそういう様に思っております、不十分かもしれないけれども、早く返す。スピード感というのを常に言っております。

それから、もう一つ大事なものは、難しいですけども説明責任をどう果たしていくかということだと思っております。できることはできる、できないことはできないということ、できるだけきっちりと説明するという能力が我々公務員にはぜひ必要だろうと思っております。私も過去、公務員を長いことずっとやっていたので、どうしても外の方から要望がありますと、人間ってやっぱり前例踏襲が楽なんですよね。今まで通りにやるのが、何も問題なく、今までこうやってました。しかし、それでは本当にどこまでが行政サービスの内容としてふさわしいのかが伝わらない。できないことから発想するんじゃなくて、どうしたらできるのかなあという発想をしていかないと、進歩、前を向いていかないだろうと思っておりますので、そういったことをいろいろ思いながら普段仕事をさせていただいているということをお話申し上げたいと思っております。

それから、政策の中身等について次にお話をさせていただきたいんですが、いろんな多岐の項目にわたりますし、それからすぐにできることとできないことが当然あります。いろいろ計画を作っていく場面、というのもありますので、なかなか一から順にずっとというのも難しいものでありますから、ちょっとメリハリを付けた形でお話しさせていただきたいと思いますが、私が公約をお示しする中で、みなさん方には、それぞれのご関心があって来ていただいていると思うんですが、「安全安心のまちづくり」、という表題と、それから、「未来を担う人づくり」、「住民に開かれ自立したまちづくり」、みなさんが「住み続けたいと思っていただけるようなまちづくり」大きく4つのくくりで、今後、この柱に沿った形で、事業の進捗とか、そういうことも説明させていただければと思います。

その中で、最初にやっぱり「安全安心のまちづくり」というのを掲げました。行政の一番大事な仕事、全て大事だと思いますけど、敢えて順番をつけるならば住民の方々の安全と安心をどう確保していくかと、生命、身体、それから、健康、財産とか、そういう大事なものをどう守っていくかということが行政の一番の仕事だろうと思っていますので、まず、最初に災害の関係にちょっと触れ、その後、道路と医療がとりわけ大事だろうと思っています、その関連の話を中心にさせていただきたいと思っています。

災害対策のことについて、最近、私が気になって取り組んできたことのお話をさせていただきますと、実は4月に大和川流域の治水の会議がありました。奈良県知事、それから国交省の近畿整備局長、以下大和盆地のだいたいの首長さんとかですね、そういった面々での会議がありまして、大和川の総合治水対策といった時に、一番ネックとなっているのが亀の瀬なんですよ。直轄で地滑り対策として、何十年もかけて整備をしていただいたんですが、河川の治水対策という意味では下流の方からずっと堤防を広げて川底を掘って、流量を多くして、上の方の治水対策につなげていくというのが原則なんです。ただし、これは荒井知事の話、議会答弁でもあったんですけど、なかなか大阪の方から堤防の用地を買い、スーパー堤防とかですね、用地を手当てして川底を掘り下げてという工事をやっていると、100年かかるだろうと言われてまして。

100年も待ってる訳にはいきませんので、国としては、そちらはそちらで治水の工事はするにしても、すぐに上流の方には効果が及んできませんので、上流部は溜めるための施策を重点化しようということで、今、国の方で計画づくりが進んでいます。

奈良県の方はまず溜めることを重要視しようと、今ずっと都市化が進んできまして、コンクリートが地面を覆っていますので、昔みたいに田んぼがあって一時、水が貯まるという機能がなくなってきたわけですね。降った雨がすぐコンクリートの上を通過して流れてくる。大和盆地に降った雨は全部王寺にくるわけですね。王寺はそういう地勢があるところで、全部集まってくる。ろうと状というか、ボトルネックというか、非常に危ないところにあるわけですね。結果として例の昭和57年の災害というのがあったんですけど、奈良という大和川上流のところでは一番危険なところにいるのが王寺なのです。それはもう、過去の経験からもよく分かっておりますので、王寺の立場として県、それから国に対して、どういう要望をしていくかということをしていろいろ考えまして、溜めるという政策は大きな基本で、国は国直轄で30ヘクタールの大規模な遊水地を作ることを計画。これはもう決まっていますけど、今、場所の選定をしてくれています。王寺の町内にはそういった場所というのはないので、大和川が高田川とか曾我川とか合流するあたり、だいたい安堵から郡山、河合、その地域で30ヘクタールの大規模な遊水地をまず作るというのが国の計画です。そこでできるだけ溜めましょう。しかし、それだけでは容量が不足しますので、大和盆地内の市町村でそれぞれ遊水地や貯留池を整備してください。小学校・中学校のグラウンドを整備して貯まるようにしましょう。それから、ため池の底を深くするとか、堤帯を高くするとか、要するに溜めるための政策をしてくださいということで県全体で計画は決まっています。

市町村ごとにどれだけの量を溜めましょうという計画は決まっていますが、王寺が一番最初に100%、当然達成しているんですけど、他の上流部の市町村はなかなか進捗が進まないんですね。自分のところの遊水地を整備しても、直接の効果が地元には及ぶんじゃないから、下流に及ぶわけですから、どうしても順序が遅くなってくるんですね。どこも財政状況が苦しい中、自分の所の足下の事業の方が大事ですから。ただし、王寺の立場からすれば、なんとか上流の方にも計画通り、溜める計画は進めてほしいということが当然あるわけですね。それで、その場の会議のことに戻りますけれども、発言をさせていただいて、王寺はこのような形で昭和57年当時、被害を受けてますので、王寺の目標は既に達成していますよと。雨水排水ポンプ場とか、久度第2雨水貯留池とかも作っています。

それで、整備をするのは経費が当然かかりますので、これも国の補助事業で国も何分の1かくれるんですけども、今それが3分の1なんです。その3分の1の補助率であったら、財政力の小さい市町村とかはなかなか着手してくれな

いわけですよね。まだ、目標の達成0パーセントという、そういう市町村が上流の方にあるんです。知事はそういう達成率を、全てみなさんに見せようと、4月の会議の時に、ここの市町村が何%しかやってませんという一覧表を配ってこられたんですよね。

要するに、我々からすれば、上流側でなんとか早く、目標を達成してほしい。放っておいたらいけないということで、その時にお願いしましたが、難しいんですけれども、我々の要望としては、今の補助率をせめて3分の1から2分の1にしてくれと。できるだけ、3年とか5年とか前倒しで、周辺の整備が進むように国の方をお願いをしてほしいと県の方に要望させていただきました。国への要望の中にもちゃんとその項目は入っています。ただし、国の方にその要望を認めていただけるかはまだこれからです。一生懸命、地元から声を上げないと、なかなかそういう制度の改正は図れないという状況にあります。

あとは、直轄の遊水地、市町村で溜めるといったハード整備は、片方でやっていく必要はあると思うんですが、今、昭和57年災害の時の時間雨量で降っても、なんとか間に合うということで、計画は進んでいるわけです。

ただし、最近のあちこちのゲリラ豪雨を考えたとき、昭和57年災害以上の災害がこれから100年来ないかという保証はできないわけですよね。そうしますと、ハード的な整備は進めないといけませんけど、併せて、いざという時のための、気構えとか訓練とかソフト面をやっつけていかないと、災害の被害を大きくしてしまうということで、今、県の方も防災計画を作っています。

それと並行して王寺も防災計画を作ろうとしています。ただし、計画を待っていたのでは、いつ災害が起こるかわかりませんので、できるだけ早くそういった、できる限りの訓練を、模擬訓練を、あるいは、防災訓練をしたいということで、今度、みなさんのご協力もいろいろ得まして、10月20日に王寺南中学校を中心に総合防災訓練をします。

併せて、自治会長の方々にもいろいろご尽力を得て、その日に、泉の広場公民館を避難所とされてるエリアのみなさん方に、呼びかけをさせていただいて、モデル的に避難訓練をします。そういう訓練をしていただく中で、いろいろまた課題を見つけていただいて、それをまた次の訓練につなげていくといったソフトの整備をぜひやっていきたいと思っていますので、ご協力のほど、お願いしておきたいと思います。

それから、その関連で言いますと、実は大和川上流地域の治水の協議会があ

るんですね、王寺の町長がその会長を仰せつかっておりまして上京して国に直接、要望を8月7日に行ってきました。

その時に、近畿全体の要望がありますので、王寺のことだけ、奈良のことだけを話しする時間は、なかなか少ないんですけど、5時半以降に立食で懇親会がありまして、この話はあちこちでするんですけど、絵にかいた餅といわれるかもしれませんが、こういうご時世ですから、川底を広げるとかじゃなくて、導水トンネルを大阪湾まで引いてくれたらどうですか、バイパスを、シールドで、ひいてくれたら早いじゃないですかと、将来への要望として、真剣に、お願いしてきたんです。

今、国土交通省の担当の局長さんは、実は桜井市出身で、畝傍高校から京大を出て国交省に入られたっていうこともありまして、地元のことをよくご存じなんです。だから、亀の瀬もよくご存じですので、これ幸いといっぱいPRしてきましたんです。王寺エリアとか西和もそうなんですけど、王寺の町の力だけ、また県だけの力ではできないことが多いわけですよ。さっき言いましたように、直轄で遊水地を30ヘクタール作るとか、導水トンネル、まだどうなるかわかりませんが、はっきり言って、これは国で頑張ってもらわないとできない事業なんです。そのためには、我々やっぱり地元として、タッグを組んで、県も巻き込んで、まずは国の方に、これは国会議員の先生も含めてですけど、要望・要求するときは、きっちりと理由を付けて要望していかないと、実現しませんので、その背景として、みなさん方のいろんな声をバックに、持って行くわけですので、またいろいろ県・国へ要望するときには、みなさん方のご意見もぜひいただきたいと思います。

今は災害の中の水害の関係でお話を申し上げました。こんなにあちこちでゲリラ豪雨が来ると、ゆっくりじっとしているわけにもいかないし、少しでも一歩ずつ前に進めていきたいなと思っています。以上が水害、川の関係であります。

それから、安全安心の中で、やっぱり道路を重視したいということを言いました。今日、国道168号、王寺小学校南の交差点から白瓜まで走られた方、カラーコーンが無くなって、4車線になっているのに気づかれたと思います。これは県の事業ですので、いろいろ交渉もしながらですけど、計画の中では平成27年度までに、松本石油のある畠田4丁目の交差点までを改良すると聞いております。用地は9割近く買ってるんですけど、残っているところの用地買収が難しいということなんです。

それから並行して高田土木事務所の方で畠田4丁目から、特に畠田の区域、

香芝へ行くまでの間の路線決定と言いますか、地域を確定する調査を今してくれています。そして秋には地元、畠田区域の人に土木事務所としての説明会をすると、そういうような段取りを聞いています。

道路って言うのはご案内のように、いくら白瓜まで改良していただいても、あそこで、4車線が2車線になってしまうと、効能を発揮しないわけですよね。ポイントからポイントまでを線でつながないと意味がない。我々からすれば、せめて、西名阪道の交差点まではなんとか早く4車線改良してほしいということで、これは県の事業ですど、道路というのは用地を手当てできていないとだめです。今後、国の補正予算とかがあれば活用しながら、用地の手当てができれば割とスッと進むのかなと思っています。だから、県の事業でありますけど、王寺町も担当の職員を配置させていただいて、協力して用地の交渉、いろんな相談も含めてですね、協力体制でやっていきたい。それでもって、用地の進捗を進めて、補正があつて、工事予算が付けば、いつでも手を挙げられるように、高田土木事務所とあるいは県土マネジメント部長といろいろ意見交換も実はさせていただいています。

そういうことで、なかなかすぐには進捗しないですけど、しかし、これだけはなんとか早く、西名阪道まで4車線改良を進めてという風に思っています。

その関連でですね、あと2つありまして、いくら国道168号南の方を改良してもですね、今、役場の部屋から見ますと、北行き車線が詰まって仕方ないわけですよね。本町1丁目の交差点が、当然ですよね、南をいくら改良しても北が2車線でしぼんでますから、どこかで詰まってしまう。

ご案内のように、国道25号というのは直轄国道ですので、これも国にやってもらざるを得ないんですよね。町がなかなか手を出せない、県も手が出せない。そういう道路です。

あそこを役場の前から三室病院を越えて1km、これを国に何とか早く計画をしてもらって整備してほしいと、これもまあ、いろんなタイミングでお願いしています。4車線に単にするだけじゃなくて、JRも越えます。大和川も越えます。これは大変な事業なんですよ。昔々に高架で越えてしまおうと、そういうプランもあったわけですけど、いつの間にか立ち消えになってしまつてですね、しかし、このまま声も上げないではいつまでたっても実現しない。やっぱり、西和地域の幹線道路ですので、あそこが南北にきちりと通らないと、日常生活も、経済活動上も、ほんとに救急車も止まりますので、支障をきたすということで、これも結果として要望するしかないんですけども、いろんなところを巻き込んで、4車線改良をできるだけ早く、おそらく10年でできない

と思いますけど、しかし、これはやっていかないといけないと思っておりますので、ぜひこれもみなさん方のバックアップが欲しいと思っております。もう一つ国道168号の関連ですが、公約の時に畠田駅の駅前道路の整備をしたいと申し上げました。当然のことながら、ホームを本当は広げてですね、4輛分の屋根を付けたいということで、お話をさせていただきました。残念ながらこれも王寺の力ではできません。JR西日本にやってもらわないといけないし、今のご時世ですので、かなり地元負担がかかるのかなあということです。ただし、あの畠田駅のホームで雨が降っていて、電車が入ってきて、その時の混雑具合が小学生の通学される人もいますので、ほんとに冷や冷やものだとずっと感じています。せめて4輛分の屋根を付けてほしい、できれば駅前広場の整備と併せてですね、ホームを広げてほしいと。こういう要望を4月以降しています。それと、署名をみなさん方をお願いさせていただきました。実は、香芝市の白鳳台や上牧町の一部の方も署名に快く応じていただき、7,622人の署名をいただきました。この量っていうのがどう評価するのかになるんですけど、まあこれもたまたまですけど、JR西日本の支社長さんが高校の後輩でして、同窓会の時に名刺交換した経緯がありまして、署名を持ってみんなで乗り込んで行って、直接要望をしてきました。知ってるからといって、すぐ付くというような甘い世の中ではございません。今までは、多分、会ってももらえなかったという風に聞いています。ただし、その後の意見交換もありますけど、いくらかの負担をルール上しなければいけないとなったら、これは仕方ないと思います。なんとかやっぱり駅のホームの安全を、一日も早く確保したいなど、それと国道168号の改良に併せて、駅前広場の整備をしたいと、バスが今、狭い狭いところで停まっていますよね、そこからまた歩いて駅の方に行ってもらわないといけませんので、雨の日とかも大変です。バスを駅の方に、ロータリーで誘導できるようにという絵が描けたらなと思っております。今年6月の補正予算で、一部、調査費も認めていただきましたので、なんとか計画的に進めていきたいなと思っております。それが、畠田駅の状況です。

安全安心の中で、子どもたちの安全をより確かなものにとということで耐震については校舎は済んでいるんですけど、窓ガラスとかつり天井とか非構造部材と呼ばれるものの耐震が進んでいけませんので、まず古いところから、王寺小学校、王寺中学校から今年度耐震化調査を含めて耐震に着手したいということで6月の補正予算で計上していただきました。2年間での整備を予定していますが、消費税がらみで国の補正予算があるとすれば、前倒しも考えていきたいと思っております。

耐震と言えば役場。やわらぎ会館は耐震化していますけど、本庁舎は耐震前にできた庁舎ですので耐震化できていませんので、今回の補正予算で耐震診断をする予算も認めていただきました。いざという時には本部機能を発揮しなければいけませんので、なんとか耐震化を進めていきたいと思っています。

次に医療です。安全安心で、医療と道路が大切と、ずっと言っているんですけども、医療に関しましては、関心あるのはやっぱり三室病院だと思います。王寺の町単独の事業というのはほとんどないんですけども、これはやっぱり王寺という場所柄、西和の中心にありますので、西和地域の関連する幹線道路とか、基幹病院とか、大和川はちょっと別かもしれませんが、そういう施設やハード整備を、王寺を中心にやっていかないと、西和全体がよくならないと思っていますので、ぜひ、声をあげていって、三室病院をもっと良い病院にしたいなど。昭和54年に開院していますので、もう34年経っています。改築することは決まっています。知事にいろいろお願いをしてきました。西和の救急の^{とりで}砦でもあります。なんとか、改築にあたって、機能を充実してほしいということでお願いをしてきている訳ですが、1つちょっとややこしい問題がありますね、実は県立病院として、奈良市の平松町に県立奈良病院があります。三室病院も県立病院ですよ。来年の4月からこの2つの病院は1つの経営体といたしますか、独立行政法人と言うんですけども、1つの経営体で2つの病院をみるということが決まってるんです。県の直属ではなくて、いわゆる独立行政法人になりますので、運営上は計画目標だけを決めて、あとは自分らでちゃんとやりなさいねということなので、割と自由がきくという風には思っているんですが、いずれにせよ1つの経営体で奈良病院と三室病院と一緒に経営しますので、なおかつこの奈良病院っていうのがですね、平成28年度にオープン、移転改築が決まっています。尼ヶ辻、平松町から、ちょっと郡山に近い方、六条山に移るんですけども、それから県立奈良病院は、医大附属病院とあわせて奈良県の医療の拠点です。ですから、県立奈良病院の今後の改築というのは相当な高等医療を充実するという方針でやられてます。そうすると、相当費用がかかります。それで、三室病院の予算が少なくなるのではと非常に心配してまして、一般病床数300床を減らさないでください、診療科も減らさないでください、救急はぜひ拡充してください、地元の一番の要求は救急ですというようなことを言ってまして、そこの線はたぶん守っていただけたらと思うんですけども、ただし、運用上、奈良病院は、がんとか、難病とか、そういう拠点病院になりますので、高度なものは奈良病院、3次救急も含めまして、機能分担

されると思うんです。同じことを2つというのは非効率ですので、距離もわりと近くなり、ちゃんと役割分担がされると思いますけれども、奈良病院ほどの充実を望むのはやっぱり無理なのかなと。ただし、1つの経営体ですので、弾力的な経営・運営をしていただけたらと思っています。

その1つで期待しているのが産科の再開なんですよ。平成21年4月から、三室病院は産科が休止されています。産婦人科の先生はおられません。もう4年経つんですよ。王寺町内は林産婦人科さんがありますけれども、結果として町の外へ、お産に行かれるという不便があるわけです。ふるさと出産はなかなかできませんよね。私は子育ては大事だって、後でまた申し上げますけども、一番最初のお産の時から非常に不便な環境におかれているわけです。これをお願いしなきゃいかんということで、ずっと言ってきました。独立行政法人、奈良病院と一緒にするのはお医者さんの融通もきくわけです。だから、3人常勤医がいないと産科も開設できないわけですけど、一緒に運用すればなんとか再開も今以上に早くなるのではないのかなという期待を持っています。

それからもう一つですね、小児科の休日夜間の救急を充実したいと思っています。自分の経験を言っても、夜になったら子どもが熱を出して親はうろうろするわけですね、そんな時に夜間と休日の救急体制、正味の救急体制があるかないか、これは本当に親御さんの子育ての安全安心を確保するために大きいことだと。今、実は奈良県の中で充実されてるのが橿原市だけなんです。橿原市は休日夜間の診療所がありまして、小児科医が常駐しています。だからいつでも一次救急はそこに行って手当てができるわけです。しかし、この界限では、そういう休日の救急診療所自身は、三室にあるんですが、休日だけで内科しかお医者さんがいません。かなり部分的な救急診療所なんです。ただし、施設はあり、7ヶ町でやっていますので仮に小児科の先生を新しい体制の方から、上手く派遣していただければ、なんとか休日と夜間の小児科の救急体制ができるんじゃないかというようなことも期待はしています。なかなか小児科の先生、この前、医師会の先生と話をしておるんですが、1つの方法として王寺町内でも小児科の開業医の先生がおられます。在宅当番と言って、月曜日がA先生、火曜日がB先生という風に、ずっと輪番でやってもらったら一応、夜11時12時までの一次救急というか、応急の処置はとれるのかなあと思うんですけれども、これはなかなか難しい状況です。

さっき言いましたように、休日応急診療所という場所がありますので、その運営を、7ヶ町で工夫すれば、休日と夜間に小児科の先生を常駐していただけるんじゃないかなと思っていますところなんです。

医療関係、今いろいろ考えている部分は申し上げたとおりなんですが、今はもうちょっと下火になりましたかね、風疹、妊婦さんの風疹のワクチン補助、これも6月に補正予算を計上させていただきました。

医療と言うことで、1つの目玉的なことで、子どもの健康を守るための医療費の助成、今までも一部、公費負担がありました。入院は中学校3年まで、それから通院は小学校入るまでが公費負担の対象として無料でありました。ただし、他の市町村の動きもあるんですけれども、やっぱり子どもさんの医療費、経済的な部分を含めて、親御さんの負担を解消すべきだと思っておりまして、通院も含めて中学3年まで医療費の公費負担を拡充したい。しかし、無料というのはよくないだろう。これは、多少の抑制も含めまして、やはり一部負担は導入すべきだろう。これは他の施策についてもそうなんですけど、入院については1ヶ月1,000円、通院については1ヶ月500円を限度に、あとは公費で出すことを10月1日の診療分から進めたいと思ってます。6月に予算を計上いただきました。今、システム変更もいろいろやっております。また、広報もしっかりさせていただきたいと思えます。

それから、医療関係でざっと表立った所をお話しさせていただいたわけですが、他の施策について、端折ってでもポイントを話させていただきたいと思えます。

高齢者対策です。高齢者に優しいまちづくりということで、実は6月に研究調査費ということで、予算をいただいたんですけれども、難しいのは介護の拠点といいますか、特別養護老人ホームと老健施設です。居宅式の介護施設。これが王寺にはありません。県内には144の特養と老健がありますけれども、王寺にはないんですよ。これがまあいろいろ理由がありまして、広域圏域の中で足りてるかどうかということで、新設の判断をするんですけど、王寺の場合は上牧町など近隣の町に施設とか、ベッド数もかなりありますので、なかなか新設っていうのは難しいです。ただし、そうは言っても、今後4人に1人は、約20年後には3人に1人は高齢者、そういう中で拠点施設は絶対いるだろうということで、今、特養をなんとか整備したいなと思って県の方ともいろいろ可能性を調整しています。

そういう特養だけじゃなくて、今、世の中は施設から在宅へということで、できるだけ自宅の方での訪問看護とか介護とか医療とかリハビリとかも含めて、訪問体制でもって在宅でケアしていこうという方向に進んでいます。その流れに沿った施設整備がぜひ必要だろうというふうに思っています。まずは、そう

いう中心となる適地を見つけて、あとはどういう施設を組み合わせ、ということなんですけど、やっぱり運営していただく法人、福祉法人でありますとかの選択の必要があります。また、消費税関連で社会福祉国民会議の提言というのがいっぱい出ています。再来年には例えば今、要支援1・2という支援者の方、介護度の低い方については、介護保険の対象から外して、市町村のサービス事業で対応しようという動きがあるのもご案内のことと思います。

その後、町として、その体制をどのように整えていくか、これは本当に大きな課題だと思ってます。サービスを十分にまかなうためには、多分、間違いなく、ボランティアという仕組みもきっちり作らないと、公費だけで全部まかなうっていうのはできないと思います。そういったことも、先ほど申しました研究調査費の中で、専門家の方々の衆知を集めながら、王寺に一番ふさわしい体制はどうかということ、できるだけ早く検討していきたいなと思っております。

あと、その関連で、高齢者の方の外出支援ということが非常に大事だと思っています。閉じこもらず、できるだけ外に出ていただくための仕掛けをですね、いろいろ工夫していかなければなりません。

高齢者の関係で、認知症の早期発見ということで、この前も防災無線でお知らせさせていただいたのですが、認知症の方で徘徊される方がおられます。そういった認知症をできるだけ早期に発見して予防していこうと社会福祉協議会で、なかなか検診等でも表に出てこられない方をピックアップして、個別に訪問診査をさせていただいています。各家庭を訪問してそういう状態になっていないかどうか個別調査をさせていただいています。地域でどうやってケアしていくか、民生委員さんも含めてそういう情報を持っていただかなくてはいけませんので、そういう基礎調査を今、やってるところでございます。

それから、資料の中には出てきていませんが、重点的にやりたいなということで健康づくりがあります。県でも健康づくりの計画を作りました。荒井知事も健康寿命、自立できる期間ですがこれを全国で一番の県にしようということで取り組んでおられます。王寺町でも従来から健康づくりには熱心です。「Get元気21」という協働の組織もあります。そういうボランティア組織も現在頑張らせていただいていますし、併せて、すそ野を広げるといいますか、住民のみなさんに幅広く健康づくりの意識を持って取り組んでもらいたいと、今考えていますのは、王寺というまちは周遊するのに便利なところですので、山や川があり、2時間くらいで回れそうな、明神山まで行こうと思えばもう少し時間がかかりますけれども、そんなに時間はかかりません。田んぼもあり、水もあり、緑もあるという、歩くのに適したところだと思いますので、歩くのを基本

に例えばマイレージカードといった健康カードを作ってもいいです。1か月の目標を決めてもらって、保健センターに1ヶ月に1回来てもらおう。それで保健師がそれを分析して指導する。それだけでは面白くないので半年に1回は内科の先生に診てもらって血液検査もして、半年の結果がどれだけ効果があったか目に見えるようにしようという構想があります。実は保健師の数が王寺町は非常に少ないものですから、採用も考えているんですけど、いろんな面で幅広く取り組めるようにしていきたいということで構想をしています。

それから、子育ての関係もですね、今、一応、王寺は待機児童が無いという風になってはいますが、これから学童保育をどうしていくかというのが大きな課題だと思っています。学校施設をどう使うのか。学校施設で足りなかったら、また校舎の中にそういう施設を作らないといけないのかもしれない。それと王寺はありがたいことに、黎明さんと片岡さんと、民間の2法人が非常にしっかり頑張ってもらっています。その2園との調整を、どう図っていくか、これも非常に大きな課題です。その中で、今は小学校3年生までですけど、たとえば小学校6年までの学童保育を拡充する、どういう方法で拡充していくのか、公設民営的な手法で行くのか、学校は今でも同じように、町直営で3小学校でやるのか、いろんな組み合わせが考えられますので、王寺にふさわしい一番いい形をぜひ見つけていきたい、そういう風に思っています。

それから、次のテーマで教育の方に触れたいと思いますが、資料のなかには予算としては無いのですが、教育振興ビジョンを作りたいと公約しています。やっぱり未来を作る子どもを、王寺としてどう育てていくかというのは大事な課題だと思います。小学校から中高へ、一連の教育というものをどういう風にプランとして持っていくのか、ぜひビジョンを作りたい。王寺独自のものを作るということは必要だと思いますが、実は今、県の方でも教育基本条例を作るということで、サミットを昨年度から何回か開かれています。今年と来年で県の教育基本条例を作ろうということで進んでいますので、情報を取りながら、並行して来年の末までには王寺町の教育振興ビジョンを作りたいと思っています。なかなかビジョンの中身、理念というものも私の口から具体的にお話しする程まとまっていません。

公約の中で、地域の中で知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てるんだということを言いましたし、これを変えるということは全くありません。ただし発達の段階で知・徳・体といっても、小さいときは徳が重要ではないか、中高の時は知、体も必要となりますが、発達段階に応じて学校教育の中で何をど

のようにやるのか、そういう目的、理念というものをしっかり議論して、そのためには懇話会を作りたいと思っています。また、いろんな方に手を挙げていただいて衆知を集めて、教育振興ビジョンを作りたいと思っていますので、また委員の募集をするかもしれませんし、みなさんのお知恵を拝借したいと考えています。教育で補正予算として上げさせていただいたのは、国際化社会を意識してまして、王寺というところも国際ビジネスマンも多く出てきますし、国際化に乗り遅れないためになんとか英語教育をやっておきたいということで、額は些少かもしれませんが、幼稚園の早いうちから英語体験を充実させるための予算を計上させていただきました。これもまた教育振興ビジョンにその考え方を反映していきたいと考えています。

いろんなことをしたいというのはあるのですが、財源をどうするかということも課題です。いま国の方は消費税を上げるかどうかという議論がありますけど、我々地方としては自分で稼げるのは住民税くらい、王寺の場合は特にそうです。法人を引っ張ってきて法人税割を上げようとしてもなかなか難しい、やっぱり商業を中心として産業を振興するというのが一番の方法かなと思ひまして、王寺駅周辺を何とか活性化したいと思っています。北側のリーベル、西友があり、売り上げも順調にきているということで、その周辺ですが、商店街自身がシャッター化しているというところもありますし、小売業者の方がだんだん少なくなってきたら、それは日本全国どこでもそうかと言われればそうなんですけど、やっぱり頑張っておられるところがある訳なんです。王寺というところはコンパクトシティを進めましょうという国交省の施策もあるんですけど、地方としてコンパクトに中心をまとめようと思ひますと、王寺駅は一つの拠点となりますので、そこにどういう商業施設の集積を図るかということは決して方向として間違っていないと思います。その為に、奈良県立大学の伊藤学長とも相談をさせていただいて、大学のゼミの学生さんにフィールドワークしていただいて、ほんとに若い人の目で、外の人々の目で王寺というまち、特に王寺駅周辺をどうやって活性化したらいいのかなと、いろんなアイデアを得ようとしています。

すでにフィールドワークで調査も入ってくれているんですけど、もう少しすればテーマを決めて両方で協定をして、いつまでにどういったテーマで調査報告書上げるか調査手順を決めたいと思いますけども、そういう大学の力を借りながら王寺としての商業圏の復権を果たしたいと思っています。

それから、財源という意味ですと王寺町は安定した住民税をどう確保するかということが大事だと思っています。これからは、リタイヤされる方も多くなって住民税が急に増えるということはありません。

ただし、定住人口を増やしていくということは基本だと思います。そのためには、ひとつは子育ての環境整備をすること、教育レベルを上げること、それから健康づくりとか環境とか住みやすい環境でもって、同じ子育てをするなら王寺に移ってみようかという方を増やしていきたいと思っています。今、スカイヒルズの方で人が増えてきていますので、南小学校や幼稚園など、そういったところの手だてをきちっとしていき、なんとか定住人口を増やしたいと思っています。定住人口を増やすためにというと、先ほど言いました子育てということもありますし環境もあります。

今やはり景観も大事な要素かなと思っています。次に景観の話を見せていただきたいのですが、まずは久度大橋が舗装や塗装が非常に痛んでいます。王寺が奈良県の西の玄関口ですので、もう少し明るくにぎわいのある所にしたいので久度大橋のリニューアルを考えています。その時に、意見があるかもしれませんがぜひ、雪丸の絵をですね側面に書いたらどうかと実は思っています。やはり、西和の玄関としてたばこのポイ捨ても留意する必要があるんですが、王寺駅周辺、西和全体の玄関口という意味で、いろんな方法で活性化と景観対策を図っていきたくと思っています。それが一つの王寺全体のイメージにつながると思っていますし、その中で雪丸も活躍していただきたらと思っています。

繰り返しますが、王寺というところは町内向けにいろいろ施策を組み立てていくことと合わせて、王寺の地勢を踏まえて広域の視点で、水も道路も医療もやっぱり王寺がリーダーシップを持って訴えていくというのは大事ですので、これを意識して6ヶ月ですがそのように活動させていただいて、いろんな意見を申し上げてきました。これからもぜひそのような形で続けていきたい、みなさんのご理解ご支援というのがベースとなりますので、普段、町政でやっていることは王伸、週報で知っていただいていることはあると思いますが、外の話はなかなか伝わらないと思うんですね。大和川にかかる話とか三室病院の取り組みとか、そういったこともいい機会だと思いますので話をさせていただきました。あと、質問をいただいていますのでその関連でもう少し詳しく話せればと思います。本当に聞き苦しかったと思いますが、全体の解説をさせていただきました。どうもありがとうございました。